

CBC NEWS LETTER

Vol.9, No.2, Nov.2008



国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニュースレター [Vol.9, No.2]

I N D E X

1. 公開シンポジウム「地域とつながる大学／地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」を開催しました
2. 第4回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会を開催しました
3. 文部科学省産学官連携コーディネーターをご紹介します
4. 主要日誌
5. 投稿案内

1

公開シンポジウム「地域とつながる大学／地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」を開催しました

去る9月29日(月)、小樽市民センター・マリホールにて、公開シンポジウム「地域とつながる大学／地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」が開催されました。ビジネス創造センターは、地域連携活動の一環として平成17年度から地域活性化セミナーを開催していますが、今般のシンポジウムは第4回地域活性化セミナーとして開催されたものです。

これまでのセミナーとの大きな違いは、全国でも数少ない社会科学系の地域共同研究センターが設置された3大学・4つのセンター(本学ビジネス創造センター、福島大学地域創造支援センター、滋賀大学産業共同研究センター、同地域連携センター)が共同で主催したことです。この3大学は、やはり平成17年から継続的に情報交換を行ってきており、これまでに社会科学系の地域共同研究センターが果たす役割や使命について議論を重ね、また産学官連携関連の全国会議などでも狭義の科学技術に偏らない社会科学系地域共同研究センターの地域貢献活動の正当な評価のあり方について協力して訴えてきました。

公開シンポジウムは、これら3つの大学のさまざまな産学官民連携・地域連携の取組事例をもとに、(特に社会科学系)大学の地域連携の今後の可能性を探ることを目的に、学外の企業、団体、一般市民などの参加者を交えて4つのテーマー「大学と地域の産業界との連携」、「大学と自治体・地方公共団体との連携」、「大学と高等学校あるいは大学間の連携」、「大学と市民の連携」一ごとに、各大学のこれまでの先進的・特徴的な取組事例を紹介し、参加者の質問やコメントに答えるという流れで進行されました。

3つの大学は、それぞれの地域性や得意分野などが異なるため、紹介された事例や話題が非常に幅広く、あっという間に2時間強の予定時間が経過してしまいましたが、本シンポジウムの開催を通じて、各大学のそれぞれの地域との「つながり」が地域を越えて共有される、新しい「つながり」に進化する糸口を見つけることが出来たように思います。

シンポジウム終了後の参加者アンケートには、「福島大学や滋賀大学の取り組みが聞いて興味深かった」という意見に加え、「もう少し時間を長くして議論を深めて欲しい」、「良い内容であったが参加者が少ないのがもったいない」という課題の指摘もありました。こうした多くのご意見を参考に、ビジネス創造センターは今後も地域との連携を強化して参りたいと考えております。

1

開催日時:平成20年9月29日(月)13時~16時開催
 場所:小樽市民センター・マリナーホール
 主催:国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター
 国立大学法人福島大学地域創造支援センター
 国立大学法人滋賀大学産業共同研究センター
 国立大学法人滋賀大学地域連携センター

共催:国立大学法人小樽商科大学地域貢献推進委員会
 後援:小樽市
 小樽商工会議所
 中小企業家同友会しりべし・小樽支部



2

第4回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会を開催しました

ビジネス創造センター(CBC)、福島大学地域創造支援センター(CERA)、滋賀大学産業共同研究センター(JRC)及び地域連携センター(CCP)の3大学の地域共同センターのセンター長及び関係者が集まり、9月29日(月)にCBC会議室において、「3大学・地域共同研究センター定期情報交換会」を開催しました。

この会議は社会科学系国立大学に設置された地域共同研究センターとしての経緯、活動領域の類似性に鑑み、3大学のセンターがそれぞれの産学官連携事業に関する創意と工夫、成果等を学び合うことにより、各大学の、より優れた社会貢献への一助とするため、定期的に情報交換会を行っています。平成17年に本学で第1回目を開催した後、各大学持ち廻りで開催され、本年は一巡して再び本学での開催となりました。

会議では、(独)経済産業研究所が実施した「大学の地域貢献に関するアンケート」の各大学の回答を基に、各大学の地域共同研究センターのおかれている現状、ならびに課題等の意見交換が熱心に行われました。

なお、午後からは会場を小樽市民センター・マリナーホールに移し、3大学センター主催の「公開シンポジウム」を開催しました。



3

文部科学省産学官連携コーディネーターをご紹介します

はじめまして。文部科学省産学官連携コーディネーターの佐藤準と申します。文部科学省産学官連携戦略展開事業(コーディネートプログラム)の採択を受け、小樽商科大学と包括連携協定を締結している札幌医科大学の両学に、本年8月1日付けで派遣されてまいりました。文部科学省産学官連携戦略展開事業では、全国に87名のコーディネーターが大学等の研究機関に配置されています。コーディネーターの主な活動は、自治体や企業、大学が連携して行うプロジェクトの支援です。地域社会(自治体、企業)に対しては配置大学のシーズ・技術・ノウハウの移転を支援し、大学等に在籍する研究者に対しては自治体や企業のニーズ、企業

3

や研究者のシーズをフィードバックして研究活動の支援を行います。また、配置された大学や地域で解決できないような技術相談については、他研究機関に配置されたコーディネーターや他制度のコーディネーターに協力を依頼します。(詳しくは文部科学省産学官連携コーディネーターサイトをご参照ください。(http://www.sangakukanren-cd.go.jp))

さて、私がコーディネーターとして配置されるにあたっては、小樽商科大学と札幌医科大学、北海道経済部からのご推薦を受けており、主に、異分野の研究シーズの融合による新たなシーズの創出、道内企業と大学との共同研究等による事業や新産業の創出、道内自治体や企業、大学との連携によるプロジェクトの企画を目標としており、これらの3つの目標に関連する活動を通じて北海道地域経済の活性化に務めることが望まれております。

具体的には、小樽商科大学と札幌医科大学の研究室、企業、自治体を訪問してニーズやシーズの発掘を行い、配置された大学のシーズや技術・ノウハウに基づいて、共同研究のマッチングや、技術移転および事業化の支援、施策の企画立案の支援を行っております。

例えば、技術開発を行っている企業がより専門的な研究を必要としている場合や、技術開発を行うにあたってのビジネスプラン検討に専門家からの助言を必要としている場合には、相応しい研究者や専門家との面談を設定します。面談結果によっては技術指導、共同研究に進む場合があります。研究者に対しては、シーズを社会に還元したい場合や企業に技術移転したい場合は、具体化が可能と思われる企業や自治体を探索し、プレゼンテーションの場を設けます。また、異分野の研究者との連携により、研究の新たな展開を図りたい場合には、他大学コーディネーターを通じた研究者の探索や、学術セミナーの開催により研究者間の交流の場を設定いたします。

以上のような産学官の交流から、実際にプロジェクトや事業を具体化する際には、必要とされる体制作りや競争的資金獲得のための調整や申請書作成、研究会やセミナーの企画運営など、各省庁の出先機関や北海道試験機関等と連携を取りながら、積極的に支援を行ってまいります。

私自身は、6年前までの5年間小樽商科大学の研究者として、自分の研究と他大学や地域との繋がりに悩みながら勤務しておりました。企業にいた6年間では、各省庁出先機関からの委託業務の中で、北海道の自治体や企業への聞き取り調査や施策の検討を行い、企業からの仕事としては、バイオマスや無機性廃棄物の有効利用や環境汚染に係る調査やその対策など、課題解決策の立案などを行ってきました。コーディネーターとしての経験は未熟ではありますが、過去の経験を活かし、人と人との繋がりを大事にし、皆様に信頼していただけるコーディネーターとなれるよう日々努力をしてみたいと思います。

センター長の海老名をはじめとするCBCスタッフ一丸となって、皆様をご支援いたします。まずは、ご連絡いただければ幸いです。

(連絡先)



小樽商科大学ビジネス創造センター

電話:0134-27-5446(直通) メール:hitosato@res.otaru-uc.ac.jp

札幌医科大学附属産学・地域連携センター

電話:011-611-2111(内線2108) メール:hitosato@sapmed.ac.jp

(プロフィール)

1968年1月23日 北海道常呂郡置戸町生まれ

1987年3月31日 札幌市立旭ヶ丘高等学校 卒業

1991年3月31日 北海道教育大学教育学部中学校課程理科 卒業

1998年3月31日 北海道大学大学院博士後期課程理学研究科化学 修了

1998年9月31日 博士(理学) 北海道大学

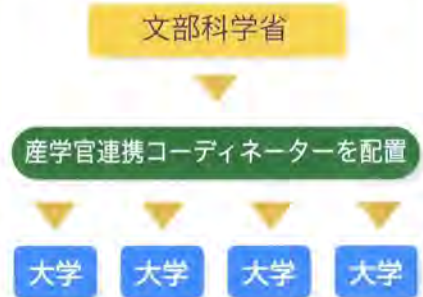
1998年4月 1日 小樽商科大学商学部一般教育等化学 助手

2003年4月 1日 株式会社エコニクス

2008年8月1日 小樽商科大学・札幌医科大学 文部科学省産学官連携コーディネーター

産学官連携戦略展開事業 (コーディネートプログラム)

共同研究の企画、契約、渉外等において、大学等では不足している分野での専門知識や実務経験をもった人材(産学官連携コーディネーター)を大学などに配置し、大学等から産学界、地域社会に対し、知識の移転、研究成果の社会還元を果たす。



CBC主要日誌（平成20年5月15日－10月31日）

CBC運営委員会	
5月30日(金)	第3回運営会議 審議:1) 学外協力スタッフの追加について 報告:4件
6月 5日(水)	第3回主任会議
6月14日(金) -15日(土)	第7回産学官連携推進会議(於:京都国際会館) 海老名センター長、大津副センター、富樫地域連携推進コーディネーター出席
6月26日(木)	第4回運営会議(持ち回り) 報告:3件
7月 3日(木)	第4回主任会議
7月10日(木)	第1回学生論文賞実施委員会
7月31日(木)	ユーザーエクスペリエンス研究部門「人間中心設計」ワークショップ(於:ユーザビリティラボ)
8月 2日(土)	第6回ビズ・サイエンスカフェおたる「毒にも薬にもなる〈植物の〉はなし」共催 (於:北海道薬科大学)
9月 4日(木) -5日(金)	第21回国立大学法人共同研究センター専任教員会議(於:栃木県総合文化センター) 海老名センター長、今野助手出席
9月29日(月)	第4回3大学・地域共同研究センター定期情報交換会
9月29日(月)	公開シンポジウム「地域とつながる大学/地域をつなぐ大学～3大学の取り組み～」 (於:小樽市民センター・マリナーホール)
10月 9日(木)	第5回主任会議
10月10日(金)	第5回運営会議(持ち回り) 審議:1) 平成20年度予算執行実績調書(第2次上半期執行済)の提出について
10月17日(金)	第63回経済資料協議会総会(於:京大会館) 今野助手出席
10月23日(木) -24日(金)	第20回国立大学法人共同研究センター長等会議(於:ホテルクレメント徳島) 海老名センター長、近藤研究部主任、佐藤文部科学省産学官連携コーディネーター出席
10月25日(土)	ユーザーエクスペリエンス研究部門「人間中心設計」ワークショップシリーズ「初めてのユーザビリティテスト」(於:ユーザビリティラボ)
10月31日(金)	第6回運営会議(持ち回り) 報告:5件

投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

- 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部(田中幹大)
Eメール: tnk@res.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.9, No.2を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

Eメール cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp

ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>